



中国留学と沖縄の将来

(3月のごあいさつ)

北京外国語大学

平成24年3月5日(月)

3月の沖縄は暦の通り春が来ました。

去年の11月、北京外国語大学東京事務所とアウルズ言語学院のお世話で簿記会計の授業を北京で3週間やらせてもらってからもう3ヶ月以上が経った。

北京外国語大学は全国重点大学の一つで、**外国語系総合大学**として外交、海外向けの人材を養成しており、学生数は20,000人、留学生は世界50ヶ国以上から700名余りと聞いた。中国人の入学は難関中の難関であるが、留学生は全寮制で主に各国の機関の推薦ということであった。**学生の勉強意欲**は高く、空教室、食堂の空席などを見つけ、至るところで本やノートを広げており、数十年前の上昇中の日本経済を想い出す程の熱気と向学心に燃えていた。このような**修学環境**の中で、中国をはじめ世界各国の将来世代と交流を深めることは一生の宝となると思う。

日本から北京外国語大学で四年制本科を履修している学生約150人の中の1～2年生からの選択43名に大学の教養科目としての簿記概論を教えた。簿記会計と併せて、公認会計士や税理士の資格、その業務内容、求められている人材など日頃の実務の中的话题を17回の講義と1回の修了試験で行って来た。

宿舎から教室まで行くのに30分近くかかる。天久新都心を思わせる大学の広大な敷地には、**緑も多く**、生活に必要なスーパー、レストラン、クリーニング店などがあると共に、隣接する北京大学、理工科大学、人民大学や商店街や飲食店、銀行、不動産会社などと共に北京の北部に**一大大学都市**を形成していた。

今まで沖縄において、東アジアからの観光、情報通信産業、国際物流、電気自動車、エコアイランド構想など、希望的に語られていたことが、最近の企業や銀行の東アジア進出などを見ると近い将来、**現実となる可能性**は大きい。

東アジアの中の将来の沖縄を考えると、現世代、特に将来の世代は最も近い**世界の大国、中国**の理解や交流が最も重要なことのように思える。

そのための一つの方法として、北京外国語大学の本格的な四年制本科への入学は若い世代の**絶好のチャンス**であるような気がしてならない。今年には既に2月で入学定員は締切られたが、北京外国語大学東京事務所の全国の入学枠30～40名(と聞く)は沖縄にとって貴重なものではないだろうか。私が仲介できる訳ではないが、以下に連絡先をかかげておく。

北京外国語大学東京事務所 〒160-0023 E-mail: komiya@pekingaidai.gr.jp
東京都新宿区西新宿 7-3-9 TEL: 03-3363-0578 FAX: 03-3371-2278
アウルズ外語学院 〒901-2212 E-mail: owls@nirai.ne.jp
沖縄県宜野湾市長田 4-13-8 TEL: 098-893-6187 FAX: 098-893-8553